

組織拡大に全力を!

全学連(斎藤郁真委員長) 書記局通信

2012年11月26日

No.69

Tel 03-3651-4861

mail_cn001@zengakuren.jp

http://www.zengakuren.jp/

ふくしま共同診療所いよいよ開院!

ふくしま共同診療所開院

記念講演会に参加しました(福島大・F)

みなさまの温かいご協力と基金によって、ふくしま共同診療所はついに12月1日に開院します。11月23日には改装が終わったばかりの診療所の見学会と、開院記念レセプションが行われました。

子どもたちの被ばくを心配しながら福島での生活を続けざるをえないのも、労働者とその家族の現実です。ですが、心配は除染で取り除かれるわけではありません。この診療所は、山下俊一らの「年間100シーベルトまでなら安全」なる宣伝と、それに依拠した政府と行政による避難の権利の否定に抗し、住民の立場に親身に寄り添ってくれる診療所です。被ばくとたたかい、生活者のための医療を取り戻す診療所です。その目的のために、労働者・市民・住民、そして医師が忌憚なく意見を出し合って、「共同」でつくりあげていく診療所です。「安心して集い、何でも相談できる診療所をつくることは、みんなの団結で命を守り、医療を取り戻すたたかいであり、すべての原発をただちに停止、廃炉にし、原発も核もない社会をつくる運動そのものです」(福島診療所建設委員会呼びかけ文より)。学生の新自由主義大学粉砕、御用学者追放のたたかいも、共同したたたかいではないでしょうか。

見学会には、近所の方や子ども、支援してくださった他県の方も多く来られました。スタッフの方が丁寧に案内・説明してくれました。内装はとてもきれいで、甲状腺検査機器もレントゲン室もあり、診療所として申し分ない施設です。診察が終わった後に気軽に相談できるスタッフルームもあります。多くの方が送ってくださった絵が飾られ、絵本も充実しています。参加した母親インタビューしたら、「甲状腺を定期的にみてくれるところ、血液検査をしてくれるところはあまりないから期待している」「この辺に病院ないからうれしい」と語ってくれました。

午後は診療所近くの会場で講演会。会場が埋まるほどの参加でした。院長の松江寛人さんと非常勤の医師が講演。診療所の抱負と、名前のおり共同でつくりあげて

募金診療所が開院

甲状腺検査機器 備え 被ばく不安に対応
毎日 11月24日 夕刊

甲状腺検査もできる超音波診断装置を導入し、希望すれば尿・血液検査なども受けられる。松江寛人・元国立がんセンター病院医師が院長に就き、県外の医師4人も非常勤で勤務するという。

福島・太田 来月1日



甲状腺検査用の機器の動作を確認する松江寛人医師(福島市太田町のふくしま共同診療所)で。

甲状腺検査もできる超音波診断装置を導入し、希望すれば尿・血液検査なども受けられる。松江寛人・元国立がんセンター病院医師が院長に就き、県外の医師4人も非常勤で勤務するという。

毎日希望奨学金
東日本大震災で保護者を亡くした遺児を支援する「毎日希望奨学金」を受け付けています。

■郵便振替 毎日新聞東京社会事業団(00120-0-76498)「奨学金」と明記してください。
■現金書留 〒100-8051 東京都千代田区一ツ橋1の1の1、毎日新聞東京社会事業団「奨学金」係。
■銀行振り込み 三菱東京UFJ銀行 東京営業部(普通0422292)、口座名は毎日新聞東京社会事業団希望奨学金。手数料は金融機関でご確認ください。
※銀行振り込みの場合、領収書や紙面掲載をご希望の方は、その旨を明記して住所、氏名、電話番号を書き、振込用紙の写しを添えて郵送かファクス(03-3213-6744)で東京社会事業団へお送りください。匿名希望名希望」と明記してください。わかれは同事業団(03-3213-2874)。

健康調査検証 30日に初会合
東京電力福島第1原発事故で福島県が実施している「県民健康調査」の検証に、国の原子力規制委員会、田中俊一委員長が乗り出す。専門家の検討チームを設け、30日に初会合を開き、事故後の住民の健康管理のあり方について年内に提言をまとめる。調査は、全県民20万人余の外部・内部被ばく放射線量を推定するため、行動記録や尿・血中の放射性物質濃度を測定する。70年代に相次いで白血病を発症した広島・長門の被ばく世帯が開設している「高陽」にも限らず、必要に応じて、診療所をモデルにし、民や医師が呼び掛けた。けんとなりの建設費を足、今年1月から約4000万円の寄付金を集め開院にこぎつける。

いく診療所であることが語られました。質疑応答では、不安を抱えるお母さんたちの切実な意見と質問が出されました。

講演会の後はレセプションが盛大に行われました。福島診療所建設委員会からのあいさつに始まり、建設基金や建設に関わった方々のあいさつ、診療に関わるスタッフの紹介などが行われました。

講演やあいさつでも多くの方が語られていましたが、「ここからがスタート」です。学生も、ふくしま共同診療所の発展のために共同してがんばろう。

11・23星野全国集会打ち抜く！

11月23日、星野再審全国集会が東京・赤羽会館にて闘われました。

「あと2～3年で出る」という星野さんの訴えにこたえ、再審勝利・星野奪還に向けたアピールが次々と発せられました。

法大文化連盟副委員長・恩田亮君からは暴処法無罪の地平から星野無罪を勝ち取る決意が述べられました。

弁護団からも再審に向けた全証拠開示運動の決意が述べられました。

71年安保・沖縄闘争を闘い、無実の罪で38年獄中で闘い続ける星野文昭さんを再審闘争と階級的労働運動・学生運動の大爆発でたたきに奪還しよう！



11・26官邸前行動、不屈に闘い抜かれる！

11月23日夕方、首相官邸・国会前、文科省前などに多くの労働者人民が集まり闘いぬいた。「大飯を止める！」「大間つくるな！」「子どもを守れ！」。熱い怒りのシュプレヒコールが途切れることなく、ドラムや太鼓のリズムに乗って夜空にこだました。

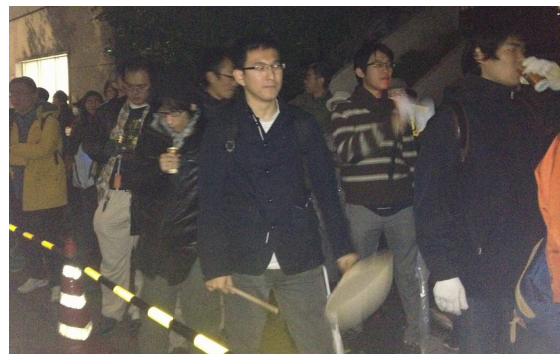
官邸前で、スピーチが始まった。島根県から来た女性は「島根3号機を稼働させることは認めない。島根原発の近くには活断層がある。事故があったらどうするのだ。私たちは避難先に広島や岡山が指定されている。46万人の住民に逃げろと言う。原発こそ出て行け！」と腹の底から怒りを表明した。

目黒区から来た女性は「この1年半、原発反対の活動をしてきました。母親の怒りを聞け！ 叫びを聞け！

原発はいらない。本当にいらない。子どもを守れ。私たちはあきらめない。これからも原発反対の活動を続けていく」と不屈に闘いを続けると宣言した。北海道から来た女性は「北海道は雪が降って寒い、毎週金曜日夜、若い人が中心になって頑張っている」と報告し、「私はチェルノブイリの子どものための保養活動をやってきた。それが今、福島原発事故で役に立つとは思わなかった。保養にきた子どもたちが『原発はいらない、子どもの命を守って』と言って帰って行った。私たちは“原発はいらない、子どもの命を守れ”のふたつを突きつけられている」と端的に語った。

集会ではまた、11月26日に仙台高裁で行われる「疎開裁判」の審尋（審理）にあわせて「11・26仙台アクション」を行うと報告し、参加を訴えた。

官邸前の怒りと結び、組織拡大へ！



←官邸前でコールを行う全学連

オスプレイ反対！沖縄1万人集会へ！

沖縄ではオスプレイの強行配備と相次ぐ米兵の事件に「基地撤去以外にない」という怒りが爆発しています。10月に起きた女性暴行事件に対して米兵の夜間（23時～5時）外出禁止が行われている最中にもかかわらず、嘉手納空軍米兵が泥酔状態で読谷村の民家に侵入し中学生を殴る事件が起き、さらに18日には海兵隊中尉が那覇・国際通り付近の民家に侵入するという事件が起きました。オスプレイの訓練も日々激しさを増し、学校や住宅地上空でのヘリモード飛行、転換モード飛行が常態化しています。しかも、海兵隊の巡回配備（UDP）の再開で来年から兵員数が5000人増えるといわれています。本当にがまんのない状況です。

しかし、この怒りの選択肢なき総選挙情勢に対して、12月23日には宜野湾で1万人超の抗議集会・デモが計画されています。年明けになった首相への直訴行動には沖大生が参加しようとしています。基地労働者の決起と一体で学生が決起しています。沖縄のキャンパスからオスプレイ撤去、法大処分撤回の闘いをつくりだすために闘います。ともに闘いましょう！（全学連沖縄現地行動隊・U）